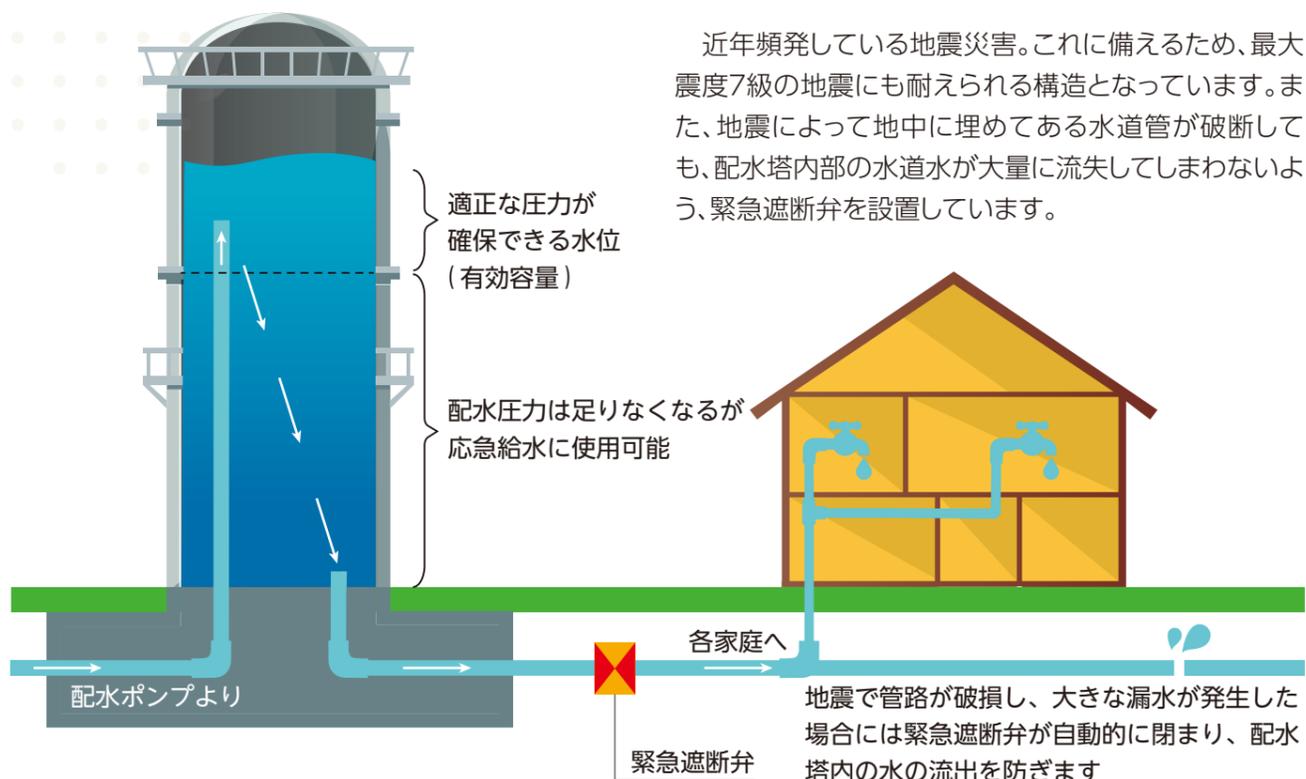


地震災害に備えた強固な設計

近年頻発している地震災害。これに備えるため、最大震度7級の地震にも耐えられる構造となっています。また、地震によって地中に埋めてある水道管が破断しても、配水塔内部の水道水が大量に流失してしまわないよう、緊急遮断弁を設置しています。



1 「水道タンク」として長年親しまれてきた旧配水塔
2 旧配水塔をモチーフに生まれたタンクくん(9歳)。これからも市水道局の公式キャラクターであり続けます

※橋や鉄塔に用いられる接合部材のこと。現在は使われなくなりました。

新しい配水塔に役割を引き継ぎ、これからも安定した水道水の供給を続けていきます。

現在、国登録有形文化財の他に、土木遺産にもなっています。

これからも地域のシンボルであり続けるよう、保存方法の検討を進めます。

建設技術では脚部のリベット(※)接合に非常に苦労したのではないかと言われています。

昭和4年3月21日に完成しました。当時、現在のような構造物の詳細な強度計算は困難で、当時の建設技術では脚部のリベット(※)接合に非常に苦労したのではないかと言われています。

現在、国登録有形文化財の他に、土木遺産にもなっています。

これからも地域のシンボルであり続けるよう、保存方法の検討を進めます。

建設技術では脚部のリベット(※)接合に非常に苦労したのではないかと言われています。

昭和4年3月21日に完成しました。当時、現在のような構造物の詳細な強度計算は困難で、当時の建設技術では脚部のリベット(※)接合に非常に苦労したのではないかと言われています。

現在、国登録有形文化財の他に、土木遺産にもなっています。

これからも地域のシンボルであり続けるよう、保存方法の検討を進めます。

建設技術では脚部のリベット(※)接合に非常に苦労したのではないかと言われています。

昭和4年3月21日に完成しました。当時、現在のような構造物の詳細な強度計算は困難で、当時の建設技術では脚部のリベット(※)接合に非常に苦労したのではないかと言われています。

現在、国登録有形文化財の他に、土木遺産にもなっています。

これからも地域のシンボルであり続けるよう、保存方法の検討を進めます。

建設技術では脚部のリベット(※)接合に非常に苦労したのではないかと言われています。

新旧配水塔の比較

新配水塔

〈直径〉12.7m
〈高さ〉37.7m
〈有効容量〉約1,000m³
〈全体容量〉約3,600m³

旧配水塔

〈直径〉約10m
〈高さ〉約37.4m
〈有効容量〉約890m³

「水道タンク」が世代交代 新しい配水塔が 完成しました



次の100年を 見据えて

敷島浄水場は昭和4年の市水道事業創設当時から稼働している施設。従来の配水塔は供用開始から92年が経過して老朽化が進んだため、令和元年から新配水塔の築造工事に着手しました。

昨年秋季には本体部分が完成し、同年12月に、貯留する水道水の水質が基準を満たすことを試験で確認。2月18日から供用を開始しています。新配水塔は、さびに強く長期的な耐久性に優れるステンレス鋼材を使用。外観はシルバー一色になりました。

飲み水や手洗い、料理、風呂、トイレなど、私たちの生活に欠かせない水。今後長い間、敷島浄水場で作った安心安全な水道水を、市民の元へ届けます。

敷島浄水課
☎027・231・3075